



1. ITER 超伝導導体製作工場の建設に着工 —TF コイル導体の製作で進展—

原子力機構は平成19年11月28日に、ITER 機構と ITER 計画で最初の調達取決めとなる「TF コイル導体調達取決め」に署名した。この調達取決めでは、原子力機構は TF コイル用導体の25%分の調達を分担する(図1)。この調達取決めに基づき、平成20年3月には、TF コイル導体の Nb₃Sn素線、超伝導撚線および導体の製作に関するそれぞれの契約をメーカー(素線2社、撚線1社、導体製作1社)と結び、調達を開始した。

超伝導撚線とジャケットを一体化する作業である「ジャケットティング」を実施する導体製作では、本年度は製作治具の設計および製作を行うとともに、これらを収納するための総延長距離が約1kmにわたる新工場(導体製作工場)の建設準備を行ってきた。平成21年1月15日には、導体製作の契約メーカーである新日鉄エンジニアリングの若松工場において、導体製作工場の安全祈願祭および起工式が執

行われ(図2, 3), 導体製作開始に向けて一歩踏み出した。新工場は本年10月に完成予定で、模擬導体を始めとして TF コイル用導体33本(総延長約23km)を製作する。

2. ITER機構職員公募の説明会の新展開—米国での開催と産総研との連携—

原子力機構は、政府からの国内機関の指名を受け、国際機関である ITER 機構への我が国からの職員の派遣に関する支援活動を行っている。その一環として、これまで国内各所およびフランスで ITER 機構職員公募の説明会を行っている。このたび、ITER 機構職員公募の一層の周知を図るために、米国での説明会を行うとともに、産総研と連携し説明会を開催した。

平成21年2月4日-5日、原子力機構ワシントン事務所と連携し、在米邦人を対象に、ITER 機構の職員公募に関する説明会を、初めて米国(ワシントン DC, サンノゼ)で開催した(図4)。この開催にあたり、在米邦人向け HP

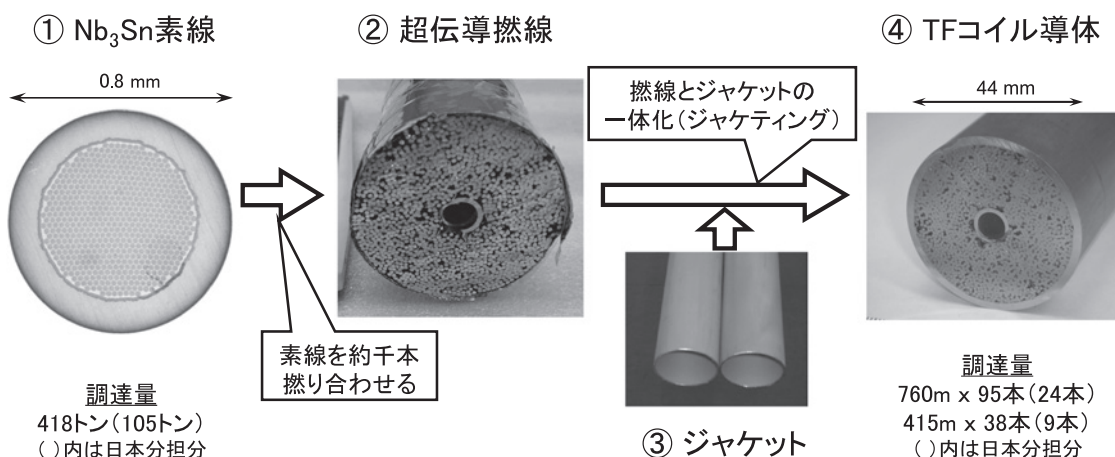


図1 TF コイル導体の製作手順。

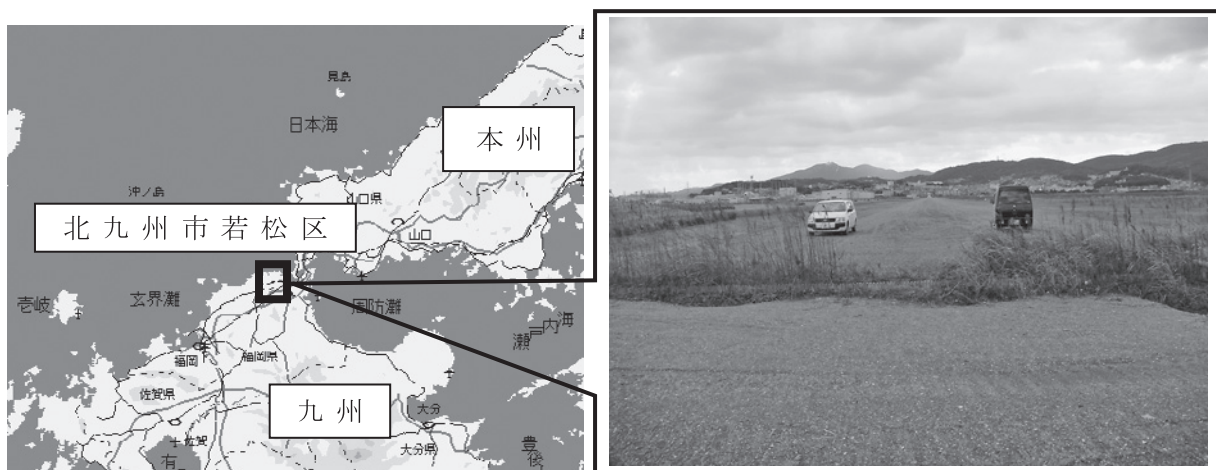


図2 導体製作工場の予定地(左)と北側からの眺望(右)。工場は南北方向に約1kmの長さとなる。



図3 神職をお迎えしての導体製作工場（新日鉄エンジニアリング若松工場）の安全祈願祭および起工式（平成21年1月15日）。



図5 産総研（つくば市）で開催された ITER 機構職員募集説明会（平成21年2月6日）。



図4 米国サンノゼで開催された ITER 機構職員募集説明会（平成21年2月5日）。

や広報誌への情報掲載，日本学術振興会の協力を得てサンフランシスコで開催された日本の大学関係者向けの会合にて原子力機構のブースを出展するなど，在米邦人向けに事前の広報を行っている。説明会の結果，参加者のうちの半

分以上の方に ITER 機構職員募集登録（公募情報の提供依頼）を行なっていただける等，在米邦人の ITER 機構職員募集への関心の高さが伺われた。

さらに同年2月6日，産業技術総合研究所（産総研）能力開発部門人材開発企画室（産総研キャリアパス事業[※]）の主催により，産総研つくば本部において ITER 機構職員募集説明会を開催した（図5）。説明会では，ITER 計画の状況や ITER 計画における日本の貢献，ITER 機構の職員公募の状況，面接試験について原子力機構から説明した。説明会には12名が参加し，産総研以外のつくば地区の研究機関や企業からの参加もあった。

詳細是那珂核融合研究所の HP

（<http://www.naka.jaea.go.jp/ITER/iter/index.html>）をご参照願います。

※産総研キャリアパス事業ホームページ（Dr's イノベーション）
<http://unit.aist.go.jp/humanres/ci/phd-career/index.html>
（日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門）